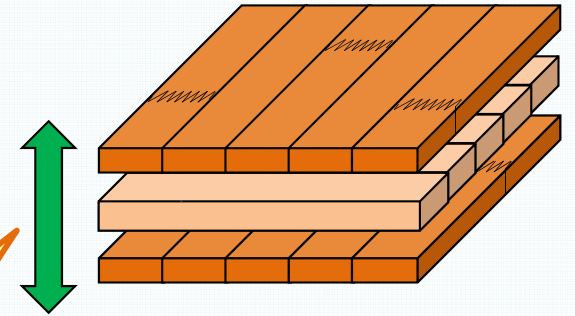


CLT（直交集成板）とは

CLT(Cross Laminated Timber: 直交集成板)とは

- CLTとは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着したパネル。
- 欧米を中心にマンションや商業施設などの壁や床として普及しており、我が国においても国産材CLTを活用した中高層建築物等の木造化による新たな木材需要の創出に期待。

CLT(スギ)



積層接着

CLTのメリット

施工が早い

コンクリートの養生期間が不要なため、短期間で施工ができる。



構造部分の組立は

2日間で完了

コンクリートは、1階あたり約5日の養生が必要

コンクリートより軽い

建物の重量が軽くなり、基礎工事の簡素化ができる。



CLT
1枚約220kg

(1m×3m×厚さ18cm)



コンクリート製品
1枚約500kg

(1m×3m×厚さ8.5cm)

※同程度の曲げ強度を有する厚さ同士の比較

断熱性が高い

同じ厚さで比較すると、CLT(木材)はコンクリートより断熱性が高い。

CLT(木材)



9cm

コンクリート



120cm

これらの断熱性能は、ほぼ同等

CLTを床(天井)や壁にパネルとして使用すれば、高断熱住宅としやすい

※3階建て・延べ面積約270㎡の事例